

【】世界の人口・人口爆発

[世界の人口]

[解答 1]約 77 億人

[解説]

2019 年の世界人口は約 77 億人 である。人口が最も多い地域はアジアで、世界の人口の約 6 割が集中している。アジアについて人口が多い地域は、人口増加率が高く食料不足の問題が起きているアフリカである。人口(2019 年)の多い 5 か国をあげると、1 位 中国(14.3 億人, 世界人口の約 5 分の 1), 2 位 インド(13.7 億人), 3 位 アメリカ合衆国(3.3 億人), 4 位 インドネシア(2.7 億人), 5 位 ブラジル(2.1 億人) である。日本の人口は 1.26 億人 で世界 11 位である。

[世界の人口] 世界の人口: <u>約77億人</u> アジアが約6割 1位中国, 2位インド (日本は1.26億人)

(統計修正)「日本国勢図会 2020/2021」 P15～20

[解答 2]X ロシア Y アメリカ Z 中国

[解説]

イのインド・インドネシアからイが人口だとわかる。面積は、ロシア(X)・カナダ・アメリカ(Y)・中国(Z)の順。人口は、中国(Z)・インド・アメリカ(Y)の順。

(統計修正)「日本国勢図会 2020/2021」 P15～20

[解答 3]イ

[解説]

人口が世界一の国は中国である。アはロシア、イは中国の一人っ子政策、ウは日本のことを述べている。

(統計修正)「日本国勢図会 2020/2021」 P468

[解答 4]2

(統計修正)「世界国勢図会 2020/2021」 P49

[解答 5]ユーラシア大陸

[解説]

ユーラシア大陸はアジア州とヨーロッパ州にまたがる大陸である。アジア州は人口が最も多い地域で、世界の人口の約 59.5%(2020 年) が集中している。ヨーロッパ州も人口が多く全世界の 9.6%(2020 年) をしめる。したがって、ユーラシア大陸の人口は、世界全体の約 69% である。

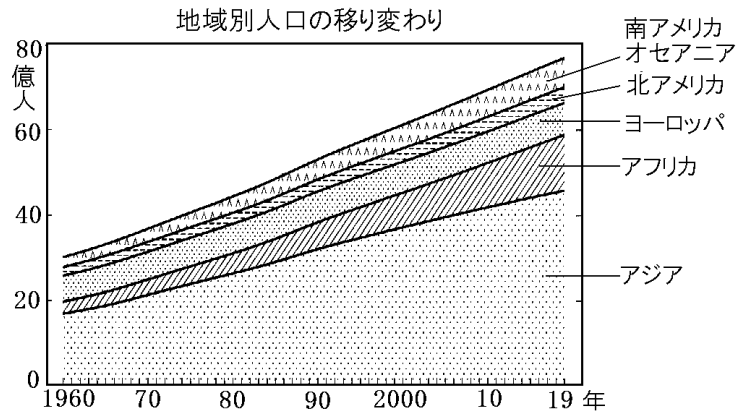
(統計修正)「世界国勢図会 2020/2021」 P35

[人口爆発]

[解答 6]人口爆発

[解説]

1950年に約25億人であった世界の人口は、20世紀後半に急激に増加し、2019年には約77億人と約3倍になった。このような急激な人口増加を人口爆発じんこうばくはつという。人口爆発はアジアやアフリカの発展途上国はってんとじょうこくで著しい。右図のように、もっとも人口が増加したのは、アジアで、2番目はアフリカである。



ヨーロッパや日本などの先進工業国では、少子高齢化しょうしこうれいかが進んでおり、人口の減少の進んでいる国もある。

(統計修正)「日本国勢図会 2020/2021」P48

[[人口爆発]]
 アジア・アフリカの
 発展途上国で人口が急増

[解答 7]ウ

[解説]

人口が多く人口増加率も大きいウがアジア州である。アジア州とともに人口増加率が大きいエはアフリカ州である。アとイは人口は人口増加率は小さい。人口の多いイがヨーロッパ州で、アが北アメリカ州である。

2020年時点の州別人口の割合は、

アジア州(59.5%)、アフリカ州(17.2%)、ヨーロッパ州(9.6%)、南アメリカ州(8.4%)、北アメリカ州(4.7%)、オセアニア州(0.5%)である。

(統計出典)「世界国勢図会 2020/2021」P35

[解答 8]アフリカ州

[解答 9](1) B (2) エ

[解説]

(1) 人口増加が著しい地域はアジアとアフリカであるが、人口が最も多いのはAのアジアなので、Bがアフリカと判断できる。Cはヨーロッパ、Dは北アメリカである。

(2) ア～ウは先進国の人口の特徴である。

[解答 10]ア

[解説]

人口爆発がおこっているのはアジアとアフリカであるが、特にアフリカにおける人口急増が著しい。1950年に2.2億人だったアフリカの人口は、2020年には13.4億人へと約6倍になった。さらに、2050年には約20億人になると予想されている。

アフリカの国では、人口の急増に食糧増産が追いつかず、飢餓に苦しむ人々が少なくない。また、農地や放牧地の無理な開拓により、砂漠化や熱帯林の破壊がすすみ、食糧不足は今後さらに深刻化することが心配されている。

[解答 11]食料が不足する問題

【】日本の人口

[人口ピラミッド]

[解答 12]ピラミッド

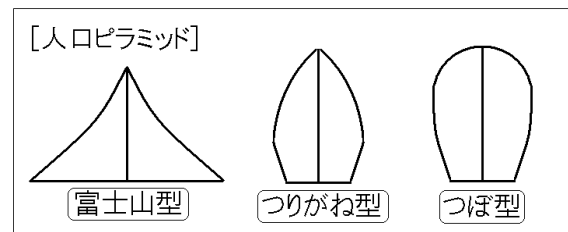
[解説]

図のような、年齢別の人口構成をあらわしたグラフを人口ピラミッドという。たて軸に年齢、横軸には人口(割合)をとり、左に男性、右に女性と分ける。

出生率と死亡率がともに高い場合は、年齢が高くなるにつれ人口が減っていくため富士山型になる。

戦前の日本は、多産多死であったため、典型的な富士山型であった。発展途上国の場合も富士山型の人口ピラミッドになることが多い。

先進国では、出生率、死亡率ともに低くなるため、子どもの数とお年寄りの数の差が富士山型よりも小さいつりがね型になる。さらに、現在の日本のように、出生率が低下傾向にある国では、子どもの数が少なく、お年寄りの数が多くなるため、人口ピラミッドはつぼ型になる。



[解答 13]イ

[解答 14]ア：エチオピア イ：インド ウ：アメリカ合衆国

[解説]

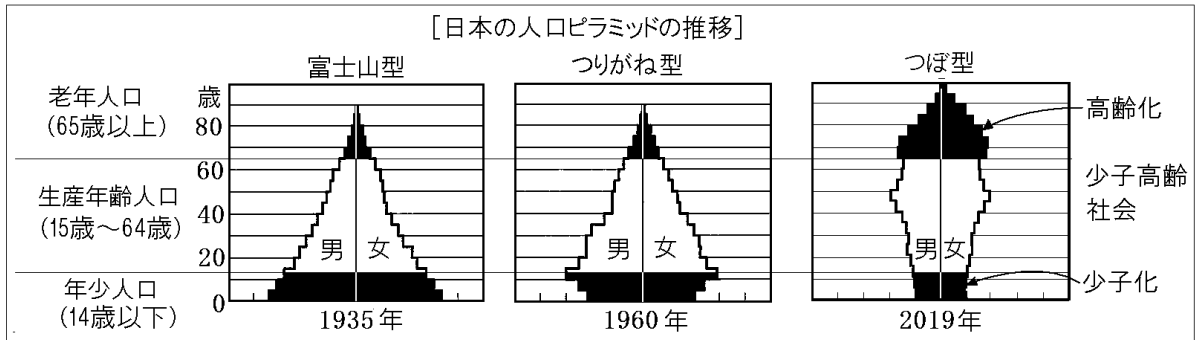
エチオピアはアのような富士山型である。アメリカ合衆国はウのようなつりがね型である。

[解答 15]つぼ型

[日本の人口ピラミッドの推移]

[解答 16] II → III → I

[解説]



1935年のグラフは富士山型である。戦前の日本では、出生率・死亡率ともに高かったため、14歳以下の人口が多く、65歳以上の人口が少ない人口構成になっていた。

まん中の1960年のグラフでは、10～20歳の人口がとくに多くなっているが、これは戦後のベビーブームの影響である。(1945年に太平洋戦争が終わり、結婚する人が増加し、その結果出生児の数が急増した)

2019年のグラフはつぼ型である。70歳代の人数が多いが、これは戦後のベビーブームの世代が70歳代になったためで、高齢化が進んでいることがわかる。20歳以下の人数が、年少になるほど少なくなっているが、これは少子化の影響である。現在の日本は、少子高齢化が進んでいる。

(統計修正)「日本国勢図会 2020/2021」P43

[解答 17]イ→エ→ウ→ア

[解答 18]① ア ② 高齢者の割合が高く、子どもの割合が低い。

(統計修正)「日本国勢図会 2020/2021」P43

[少子高齢化]

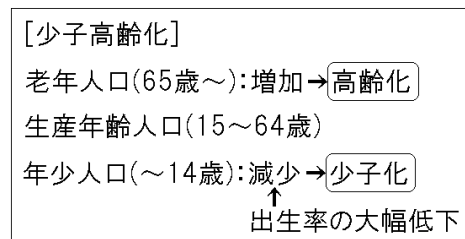
[解答 19]① 高く ② 3.8人

[解説]

日本は、出生率の低下と平均寿命ののびによって、少子高齢化が急速に進行しつつある。

1人の女性が生涯に産む子どもの数を出生率という。長期的に人口を維持できる出生率は2.07人である。戦後のベビーブームのころの出生率は4.3人であったが、次第に減少し1973年には2.14人になった。

その後、減少傾向が続き、2018年には1.42人となった。総人口は、2005年までは増加を続けたが、これは平均寿命が延びて高齢者の人口が増加したためである。



65歳以上の老年人口が全人口に占める割合は、1965年6.3%→1975年7.9%→1985年10.3%→1995年14.3%→2005年20.0%と増加の一途をたどり、2019年には28.4%となっている。

現在、戦後のベビーブームの世代(団塊の世代)が70歳を超え、老年人口がさらに増加していくことは確実である。出生率が現在の水準で推移とした場合、2055年には老年人口は全体の約40%に達すると予想されている。

(統計出典)「日本国勢図会 2020/2021」P38, 43

[解答 20]15歳未満：イ 15歳～64歳：ア 65歳以上：ウ

[解説]

高齢化が進み、高齢者の割合は増加を続け現在は28%を超えているので、ウが65歳以上のグラフであると判断できる。また、15歳未満の年少人口の割合は減少を続けているのでイが15歳未満のグラフとわかる。

[解答 21]出生率が低下して子どもの数が少なくなり、平均寿命がのびて老年人口が一定の割合を超えること。

[解答 22]年少人口の割合が低く、老年人口の割合が高い。

[解答 23]ア

[解説]

アは正しい。日本は現在世界一の長寿国である。イは誤り。食糧不足の問題は解決していない。ウは誤り。中国の人口増加は、一人っ子政策である程度抑制されてきたが、人口は依然として増加傾向にある。エは誤り。人口ピラミッドは、先進国はつりがね型、発展途上国は富士山型である。

[解答 24]エ

【】人口密度・過密と過疎

[人口密度]

[解答 25]21人/km²

[解説]

国や地域の人口を、その国や地域の面積で割ったものを人口密度といい、

$(\text{人口密度}) = (\text{人口}) \div (\text{面積})$ で求める。

$(\text{人口密度}) = (\text{人口}) \div (\text{面積}) = 27550000(\text{人}) \div 1290000(\text{km}^2) = 21.35 \cdots (\text{人}/\text{km}^2)$

[解答 26]人口を土地の面積で割る。

[解答 27]D

[解答 28]エ

[解説]

(人口密度)=(人口)÷(面積) なので、

(人口)=(人口密度)×(面積)、(面積)=(人口)÷(人口密度)

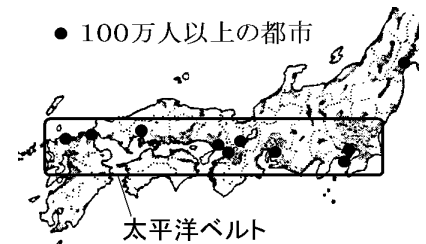
例えば、ア : (面積)=1315840000÷137≒960 万 km²

[日本の人口の分布]

[解答 29]関東地方

[解説]

日本の人口は、おもに太平洋側沿岸に集中している。日本の、関東から北九州までの人口が集中した地域を太平洋ベルト地帯という。この地域は、地形で見ると平野や盆地が多く、産業面から見ると工業のさかんな地域で、札幌と仙台をのぞくすべての 100 万都市は、太平洋ベルト地帯の中にある。



[解答 30]B

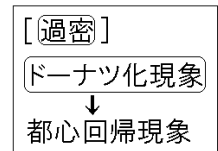
[解答 31]多くの労働力を確保しやすいこと。

[過密]

[解答 32]過密

[解説]

ある地域に人口や建物などが集中しすぎることを^{かみつ}過密という。とくに、東京は、政治や経済などの様々な中心が集まっているため、過密地域になっている。過密地域では、^{じゅうたい}交通渋滞、住宅不足、大気汚染、ごみ問題などが深刻である。



都心部の地価が上昇し、人々は、比較的安い土地が得られる郊外の^{こうがい}ニュータウンなどに住むようになった。その結果、都心部の人口が減少する一方で郊外の人口が増加し、人口が都心を中心にしてドーナツのように^{ぶんぶ}分布するようになった。この^{げんしょう}現象をドーナツ化現象という。(東京や大阪の中心部の昼間人口が夜間人口よりも多いのは、昼間、^{つうぎん}通勤や通学で都市の中心部へ来ていた人が、夜は周辺の郊外へ帰るからである。)

バブル経済が^{ほうかい}崩壊した 1990 年代以降、地価が安定してきたこともあって、再開発された都心部の^{こうそう}高層住宅に住む人が増える^{としんかいきげんしょう}都心回帰現象も見られるようになっている。

1960～70 年代に建てられたニュータウンでは、現在住民の高齢化が問題になっている。

[解答 33]ニュータウン

[解答 34]人口が集中すると、朝夕の交通量が増えて、交通渋滞が問題となるため、道路や鉄道網を整備するなどして、その緩和をはかっている。

[解答 35]大阪府などへ通勤・通学する人が多いから。

[解説]

滋賀・兵庫・奈良・三重・和歌山は昼夜間人口比率が 100%未満になっているが、これは、通勤や通学などで大阪府などに移動するため、昼間人口が少なくなっている。

(統計修正)「日本国勢図会 2020/2021」P54

[解答 36]① 昼間人口が夜間人口より少ない。 ② 昼間に大阪府などへ通勤、通学する人が多いから。

(統計修正)「日本国勢図会 2020/2021」P54

[過疎]

[解答 37]過疎地域

[解説]

農村(とくに、^{さんかんぶ}山間部や^{りとう}離島)では、若い人が仕事を求めて都市部へ出て行き、人口の減少と高^{こうれいか}齢化が進んでいる。

その結果、経済活動がおとろえ、公共交通機関がなくなるなど、地域社会を維持する機能が弱くなる。

このように、地域の人口が減少することにより、地域住民の生活が成立しなくなる現象を^{かそ}過疎^{かそ}といい、そのような地域を過疎地域という。

過疎地域の中には、高^{こうれいか}齢化が極端に進み、65 歳以上の人口が過半数をしめる^{しゅうらく}集落もある。

このような集落を^{げんかいしゅうらく}限界集落^{げんかいしゅうらく}という。

このような過疎問題に対し、地域の産物や自然を生かした町おこし・村おこしがさかんになっている。観光地の開発・山村^{さんそんりゅうがく}留学に力を入れる村も出てきている。

[過疎問題]

農村(とくに山間部や離島):若者の流出

↓

人口減少, 高^{こうれいか}齢化 → 過疎

さらに、限界集落

[解答 38]過疎化(過疎)

[解答 39]ウ

[解答 40]平野

[解答 41]U ターン